

活動報告

鳴門教育大学国際教育協力研究 第6号, 39, 2012

平成 23 年度セネガルフォローアップ調査報告 (平成 24 年 2 月 26 日～3 月 8 日)

石村 雅雄, 小澤 大成

Masao ISHIMURA, Hiroaki OZAWA

鳴門教育大学

Naruto University of Education

1. 目的・成果・課題・展望

本調査の目的は、本年度鳴門教育大学で行った「仏語圏アフリカ理数科分野における教授法／教科指導法改善研修」にセネガルより参加した研修員の勤務先を訪問し、授業を観察することや聴き取り調査を行うことによって、①日本研修におけるニーズを確認し、②平成 24 年度以降の研修で用いる教材の収集を行うことである。

成果としては、以下があげられる。

- (1) 小学校、中学校、高校における理科・数学の授業を観察し、ビデオとして収録できたこと。
- (2) 小学校レベルの数学教科書、高校レベルの理科教科書を収集できたこと。
- (3) 過年度研修員（マルグリット、アミナタ、ママドゥの各氏）とも連絡をとり、フォローアップを行ったこと。特に昨年度研修員のリ・パバ氏（ルーガ地域視学官）はケベメル視学官事務所を訪問した我々に面会に来てくれ、本年度研修員と顔つなぎを行うとともに今後の再訪を約束することができた。
- (4) JICA 事務所を訪問し、セネガルの教育事情や PREMST プロジェクトについて情報収集するとともに今後の研修に関する要望を聴取することができたこと。「教員指導者の授業観を変化させ、子供の学びを確認して授業改善に取り組むよう指導してほしい」とのことであった。

課題としては、以下があげられる。

- (1) 授業観察を実施したが、授業検討会については本格的な実施ができなかった。研修員の帰国後時間がなく学校内の準備が十分できなかったこと、過年度研修員で小学校校長であった者が高校に異動し、実践しやすい場がなかったことがあげられる。

展望としては、以下があげられる。

- (1) 帰国研修員および過年度研修員はクラスター（セル）あるいは校内での授業研究に意欲的であり、アクションプランの開始時期を選んで再訪し、その実施を支援することが考えられる。その際研究授業だけでなく授業検討会についてもビデオ収録し研修教材として活用することを目指したい。

2. 訪問日程

2 月 27 日	セネガル着
2 月 28 日	調査準備
2 月 29 日	資料収集
3 月 1 日	Ngoundiane, Thies 訪問 Ngoundiane 高校（マンガヌ研修員） ティエス国立視覚障害者教育学院（ディウフ研修員）
3 月 2 日	Fatik 訪問 教職員研修センター（ンドゥール研修員） 視学官事務所 Seringne Khaly Niang 小学校
3 月 3 日	資料整理
3 月 4 日	資料整理
3 月 5 日	JICA セネガル事務所訪問
3 月 6 日	Kebemer 訪問、セネガル発 視学官事務所（デンバ研修員、リ・パバ研修員） Cheikh Ibra Faye 小学校